

Shinichiro Ikebe & Haruo Uesugi

Joint Concert



第1部 「これもフランス音楽!?から、これぞフランス音楽!まで」 「教会や王侯貴族のためのフランス音楽」

華やかなイメージのフランス音楽の奥には、いろんなものが詰まっています。聖職者にして作曲家、詩人であった中世の怪人マシヨ、バッハの陰に隠れた近代音楽の父ラモーや、バッハと同時代ながらもがましい作風の奇才ロワイエなど、多士済々のメンバーを池辺晋一郎の名解説でご紹介!

マシヨ: ノートルダムミサ曲より(2台ピアノ編曲/ピアノ:池辺晋一郎・上杉春雄)

クーブラン: 恋のナイチンゲール(ピアノ:上杉春雄)

ロワイエ: めまい(ピアノ:上杉春雄)

ラモー: ガヴォットと変奏(ピアノ:上杉春雄)

*やむをえない事情により曲目等が変更となる場合がありますので予めご了承ください。

第2部 「ザ・フランス音楽百花繚乱」 「市民のフランス音楽」

こちらは一転、錚々たる近代の作曲家たちの作品を中心に、いかにもフランス音楽の王道を並べながら、そこは池辺マジック!そのままはお出ししません。ちょっとひねりを入れた演出もご覧いただきましょう。

デュバルク: 悲しき歌、旅へのいざない(ソプラノ:小林沙羅)

ドビュッシー: 亜麻色の髪の乙女、映像1集より「水の反映」(ピアノ:上杉春雄)

ラヴェル: 水の戯れ(ピアノ:上杉春雄)

ラヴェル: 「マ・メール・ロワ」より(ピアノ:池辺晋一郎・上杉春雄)

アーン: クロリスに(ソプラノ:小林沙羅)

フォーレ: 夢のあとに(ソプラノ:小林沙羅)

グノー: 宝石の歌(ソプラノ:小林沙羅)

池辺晋一郎 Shinichiro Ikebe 作曲家

1943年水戸市生まれ。1967年東京芸術大学卒業。1971年同大学院修了。池内友次郎、矢代秋雄、三善晃、島岡譲の各氏に師事。

1966年日本音楽コンクール第1位。同年音楽之友社室内楽曲作曲コンクール第1位。1968年音楽之友社賞。以後ザルツブルクTVオペラ祭優秀賞、イタリア放送協会賞3度、国際エミー賞、芸術祭優秀賞4度、尾高賞2度、毎日映画コンクール音楽賞3度、日本アカデミー賞優秀音楽賞9度(内、3度最優秀賞)、横浜文化賞などを受賞。1997年NHK交響楽団・有馬賞、2002年放送文化賞、2004年紫綬褒章、2015年姫路市芸術文化大賞、2016年度邊曉雄音楽基金特別賞を受章。

現在東京音楽大学客員教授、東京オペラシティ・ミュージックディレクター、石川県立音楽堂・洋楽監督、横浜みなとみらいホール館長、せたがや文化財団音楽事業部音楽監督。ほか多くの文化団体の企画運営委員、顧問、評議員、音楽コンクール選考委員などを務める。

作品: 交響曲No.1~10、ピアノ協奏曲No.1~3、チェロ協奏曲、オペラ「死神」「鹿鳴館」「高野聖」をはじめ管弦楽曲、室内楽曲、合唱曲など多数。

附帯音楽: 映画「影武者」「楯山節考」「うなぎ」「瀬戸内少年野球団」「スパイ・ゾルゲ」、TV「八代将軍吉宗」「元禄繚乱」、など多数の映画・ドラマ音楽の他、演劇音楽約500本を担当。

著書に「音のいい残したもの」「おもしろく学ぶ楽典」「オーケストラの読みかた」「スプラッシュ」「空を見てますか…1~7」「バッハの音符たち」「モーツァルトの音符たち」「ブラームスの音符たち」「シューベルトの音符たち」「ベートーヴェンの音符たち」「シューマンの音符たち」等がある。

1996年より13年間、NHKテレビ「N響アワー」の司会を担当し、現在、NHKFM「N響ザ・レジェンド」担当。

上杉春雄 Haruo Uesugi ピアニスト・医師

1967年、北海道生まれ。ピアニストとして、ソロ、協奏曲、室内楽などのステージおよびレクチャーを行い、2013年にデビュー25周年を迎えた。

PTNA G級金賞・グランプリ、マリア・カナルス国際コンクール上位入賞など入賞多数。1988年東芝EMIよりCDデビュー、サントリーホール、大阪ザ・シンフォニーホールでのリサイタルを皮切りに、札幌コンサートホールKitara、紀尾井ホール、兵庫県立芸術文化センターなど全国各地でのソロリサイタルや、札幌交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、東京フィル、読売日響などとの共演多数。ライフワークとするバッハ演奏では、2012年にリリースした「平均律クラヴィア曲集第1巻」(オクタヴィア)が「レコード芸術」誌上で特選盤に選ばれたほか、全国各地でレクチャーを行う。NHK-FM「名曲リサイタル」、浜離宮ランチタイムコンサート、Hakuju Hall「リクライニング・コンサート」等に出演。また勤務先などでも病院内コンサートを開催、これらの活動はNHK「芸術劇場」、「未来への展望」、読売新聞「顔」欄などで取り上げられている。

執筆、翻訳にも精力的に取り組み、歌唱伴奏を師事した世界的なコレペティトゥアM.カツツ氏の著書「ピアノ共演法」を翻訳(音楽之友社)。また、中丸三千繪、波多野陸美、故G.Sima(元ウイーン国立歌劇場専属歌手)、森麻季らの歌手と共演、器楽奏者では、諏訪内晶子、川本嘉子、藤原真理、A.スコッチラと共演を重ね、近年は、クロアチアやオーストリアなど海外でのリサイタルも行っている。

2007年より「バッハ連続演奏会シリーズ」として、平均律第1巻、第2巻、ゴールドベルク変奏曲を取り上げてきた。2016年より4コース目としてパルティータの連続演奏会を始める。

北海道大学医学部卒、東京大学大学院医学研究科修了。スウェーデン・ウプサラ大学臨床神経生理部門留学。医学博士、日本内科学会認定医、日本神経学会専門医。現在、札幌山の上山病院院長。

小林沙羅 Sara Kobayashi ソプラノ

東京藝術大学卒業。同大学院修士課程修了。2010年よりウィーンとローマにて研鑽を積み、演奏活動を行う。2011年度文化庁新進芸術家在外研修員。2014年度ロームミュージックファンデーション奨学生。2015年より日本に拠点を移し活動。

2012年にソフィア国立歌劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ役で欧州オペラデビュー。同歌劇場『愛の妙薬』プレミエ公演にはアディーナ役で出演、好評を博す。日本国内では2006年に『バステイアンとバステイエンヌ』バステイエンヌでデビュー後、東京芸術劇場シアターオペラシリーズ2008年『イリス』芸者、2009年『トゥーランドット』リユー、2014年『こうもり』アデーレ、日生劇場2009、2013年『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、兵庫県立芸術文化センター2011年『こうもり』アデーレ、新国立劇場2014年『パルジファル』花の乙女等に出演。千住明・松本隆の『隅田川』狂女、三枝成彰『KAMIKAZE』愛子(大友直人指揮)、二宮玲子・林望『源氏物語MABO-ROSHI』紫の上など、多くの新作オペラ初演も務める。2015年には野田秀樹演出のオペラ『フィガロの結婚』全国ツアーにスザンナ役で出演し好評を博す。また、学生時代より〈VOICE SPACE〉のメインボーカルを務め、詩と音楽をコラボレートした新作を多数発表。新しいことに挑戦していく姿勢を大切にしている。ヘンデル「メサイア」、ハイドン「天地創造」、フォーレ「レクイエム」、マーラー「第四交響曲」等コンサートソリストとしても活躍。NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団等、多くのオーケストラとの共演を重ねる。〈サイトウ・キネン・フェスティバル〉参加、映画「のだめカンタービレ」での歌唱、「題名のない音楽会」出演、2013年プロ野球コナミ日本シリーズでの国歌独唱等でも注目を浴びる。2014年に日本コロムビアよりファーストアルバム「花のしらべ」をリリース。2016年11月にはセカンドアルバム「この世でいちばん優しい歌」をリリース。オフィシャルHP: sarakobayashi.com

